

テーマ別講師研究会成果報告書

研究会名	国語教育の再構築研究会	代表者名	結城 敦司
------	-------------	------	-------

■研究成果

1. 研究テーマ

中等教育における現代文読解の不十分さを訴える。豊かな日本語・国語教育を根付かせる。

2. 研究に至る課題意識

大学入学試験の特に国立大学二次試験の問題の解答例（「旺文社大学入試問題正解」の解答例など）にしばしば混乱が見られるため、大学には二次試験の正解例を公表するように訴えとともに、高校には現代文読解の授業の在り方を提言すること。

3. 研究方法

大学に対しては、「全国大学国語教育学会」に加入し同学会の自由研究発表にて具体的に解答例の過誤を指摘し、もって大学側の正解例を公表するように訴えてきた。

高校に対しては、文教研のときに作った「教師の学校」（結城敦司と難波広島大学教授（当時）と長岡第一学習者小論文担当講師（当時）共同主宰）を河合塾教育研究開発部でも踏襲し、その場で研究発表や授業相談会や講演会活動を通じて、現代文読解の在り方について訴えてきた。

この際、浮き彫りになったのは高校生よりも前段階での言語教育が大切なのではないか、ということ。

4. 具体的な成果

国立大学においては、近年二次試験の正解例を公表するケースが増えてきており、当方の訴えがそれなりに受け入れられているものと考えられる。

高校においては、「教師の学校」発足当初は「記号論的な解き方（安直な読み解きのひとつ）」を主張する教員もいたが、回を重ねるにしたがって減っていき、最近では優秀な教員が多数を占めており、この意味では「教師の学校」の使命は果たしていると考えられる。

小学生や中学生などに講演会の形で言語教育の重要性を訴えつつも、単発の講演会活動では訴えに限界があることも鮮明になってきた。さらに、広く学力全般に広げると、近年の脳科学の進展で身体の運動が脳にいい影響を及ぼすことも明らかになるにつけ、身体の運動と言語力、学力、集中力などの関連が次なる課題として見えてきた。